

横芝の碑

(その七十)

於幾の琴平街道に建つ二つの碑

トッコン様の巻

於幾の産土様である水神の社の前に並んで建っている二つの碑、一つは前回紹介した寛保元年建立の庚申様ですが、いま一つの碑を里の人々はトッコン様と呼んで、

眼病治癒に靈驗著しい神様として信仰しています。

碑の表面には、南無阿弥陀仏、徳本中、と釘か何かで引っ掻いたような文字が刻まれ、背面には、



▲「眼の病に効あり」と言われるトッコン様跡地から眺めた粟島橋

文化十四年六月、開眼徳本上人、神保家建之、とこれは普通の書体で刻まれています。

徳本上人は、坂田城に縁ある身分の高い武士の家柄でしたが、ふとした事から盲目になってしまいました。突然暗黒の世界に投出されたような悲しみは如何ばかり、一人悶々の日々を過ごしておりましたが、ある夜、仏様が目の前にお姿を現され、その光々しさに思わず「南無阿弥陀仏」と唱えながら両手を合せて拝んだ夢を見ました。そして見えないはずの眼に、ありありと拝むことのできた仏様のありがたさに打たれ、その日から仏弟子となつて心の眼を求めて修業に励みました。厳し、修業、苦行の末、眼の不自由な人を救う使命の悟りを開き、そのための加持祈禱はもちろん、さらに鍼灸、医術の修業をも続け、水辺近い栗山川の畔に庵を結んで、眼の不自由な人にはありがたい説法で心の明るさを与え、また眼を患っている人には治療を施すなど、一生を眼で苦勞する人々に捧げ尽しましたが謝礼などは殆んど求めないで、自分から荒地を切り開いて作った麦やそば粉を食べたり、木の実や野草の若芽などで生活する姿を見た里の人々は、徳本上人と呼んで敬い、上人が亡くなった後も子から孫へとその徳は語り継がれましたが、何時かトッコン様と呼ぶ

れるようになりました。

トッコン様

夢枕に立つ?

文化十四年、坂田城には、徳本上人よりさらに深い係りをもつ神保家では、上人の徳行追慕の碑を建立したものだということです。

碑は、もとは粟島橋に程近い栗山川の堤の大きな松の根本に建っていたのですが、河川改修の時に碑の建っていた場所の地盤が崩れて碑は川の中に沈んでしまいました。ところが、河川改修後の耕地整理や道譜請などに取まされ、誰も気がつかず時が過ぎました。その中に、誰ともなく「トッコン様が夢枕に立った」という噂が立ち始めました。気になった人達が、堤の松の木の下を見ますと、その地盤が崩れていて、トッコン様の碑が見当りません。「夢枕の噂は本当だ、トッコン様を探せ、」と

いうので、皆で川の中を探し、すぐ下に沈んでいた碑を引上げ、ほつとしましたが、「ここに建っているのは、またこうしことがあるかも知れない」と、皆で相談して産土様の前に移して建てたのだそうです。

今、トッコン様は、隣に立つておられる耳の神様である庚申様とともに、眼の神様(あるいは仏様)として衆上の願いに、万遍なく御利益を授けておられ、未だに信仰者が絶えず、中でも小安泰(ゆたか)さんは常に庚申様とトッコン様の仕守りと供養を続けておられます。

写真は、トッコン様が昔建っていたという堤から眺めた粟島様です。下の流れは栗山川で、向うに見える丘陵は光町です。トッコン様の碑の写真と案内図は紹介済なので省略しました。

文化財審議会委員

小沢春光氏寄稿

筆者紹介



小沢春光氏

大正五年三月二十日生、東京

都大田区出身(62歳)。昭和二十三年から五十一年までの二十八年間町役場に在職、退職後、行政相談員、町文化財審議会委員として活躍、現在に至る。郷土史にかける情熱は並々ならぬものがある。

連絡先 栗山三、三二三番地

☎(2)0762